

**我が家の暑熱対策を確認しましょう！**

□最近の夏は暑い！

表1 過去5年間ごとの気温データ比較（気象庁アメダスデータ）

標茶	日平均最高気温		最高気温	
	06~10年	11~15年	06~10年	11~15年
7月上	21.0	22.6	26.6	29.3
7月中	20.4	23.3	26.9	29.2
7月下	21.7	23.9	26.9	28.9
8月上	25.7	23.8	31.4	28.5
8月中	24.4	23.6	29.7	28.7
8月下	23.7	23.1	27.2	28.0
9月上	22.6	22.6	26.2	26.8
9月中	21.4	21.6	25.3	26.0
9月下	19.0	19.2	23.4	23.3
平均	22.2 (A)	22.6 (B)	27.1 (C)	27.6 (D)

表1から標茶町では、日平均最高気温で0・4℃（表1のD）、最高気温で0・5℃（表1のC）上昇していることがわかります。また、5月下旬に気象庁から発表された3か月の予報によると7月、8月の平均気温は平年並みまたは高い確率が、7割となっています。

□暑熱による乳牛・経営への影響  
人間に例えると乳牛は、いつも毛皮のコートを着て、湯たんぽを

抱いて生活しています。したがって、人が快適と感じる気温である20℃前後から暑熱ストレスを感じるようになります。図1は、暑熱による乳牛・経営への影響を示したものです。

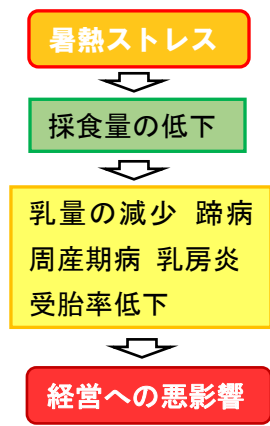


図1 暑熱による乳牛・経営への影響

□暑熱対策

以下にあげる4点について、もう一度チェックしましょう。

1. 水（新鮮で、清潔な水をいつでも十分に飲めるようにします）  
気温の増加とともに飲水量は、増加します。飲水量は、乳量や採食量に大きく影響を与えます。水槽やウォーターカップは、毎日掃除するとともに定期的に吐水量の確認を行いましう。
2. 送風（風）

牛体の首から肩（上半身）へファンなどで直接、風を当てて牛の体感温度を下げてあげましょう。その際には、ファンの風が飼槽に直接当たらないように注意しま

3. 遮光（直射日光を遮る）  
牛や飼槽に西日などの直射日光が当たる時間帯には、遮光ネットやブラインド、カーテンなどを利用して遮光します。

4. 換気  
繋ぎ牛舎では、窓を外します（外した窓は破損防止のため、速やかにかたづけしておきます）。フリーストール牛舎では、カーテン・扉を開放します。少しでも涼しく、新鮮な空気が入るようにします（野生生物が入り込まないようににネットの設置を忘れずに！）。さらに、高温時は、牛舎周りや牛舎の屋根に散水し、気化熱により牛舎内を涼しくする対策も必要となります。

□地域の有効事例（標茶町N牧場）  
前述の暑熱対策については、以前から実施していました。加えて、青年のプロジェクト活動として以下の対策を実施しました。

- ① ヒートストレスメーター（気温と湿度を計測し、暑熱対策開始の目安を視覚的に知らせてくれるもの）を設置（写真1）



写真1 ヒートストレスメーター  
農協資材等で購入することができます

- ② 家族でルールを決める（ヒートストレスメーターが暑熱対策の目安を示したときには、必ず扇風機のスイッチを入れる）
- ③ 気温が高く、湿度が低い場合には、補助的に細霧冷房システム（細霧を発生させ、細霧の気化熱で牛舎内や牛体を冷却する）稼働

取り組みの結果、7～9月の乳量が、対前年比で約2割増加しました（この対策の効果がすべてではありませんが）。青年からは、「プロジェクトに取り組んで大きな成果がでたのでやる気が出た。これからも暑熱対策を継続する。乳量が増えて、経営主である父も喜んでいた。」との声が聞かれました。